



利根中央病院だより

第70号
2024年 新年号

きらめき



発行責任者 利根中央病院 病院長
編集責任者 利根中央病院 事務長
〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1
TEL：0278-22-4321（代表）
FAX：0278-22-4393
URL：https://www.tonehoken.or.jp/

新年のご挨拶

病院長 ^{せきはら まさお} 関原 正夫



新年あけましておめでとうございます。皆様とともに、新しい年を迎えることができましたことをお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更となり、社会生活も通常に戻りつつあります。しかし、いまだ完全な終息には至っておらず、加えて季節性インフルエンザウィルスが猛威を振るっている状況です。今年は「甲辰（きのえ・たつ）」年です。辰は草木が成長して活力

が旺盛になる状態を表すとともに、龍のことを指し権力・隆盛の象徴とされています。甲は生命や物事の始まりや成長を意味するそうです。

種々の感染症を乗り越えながら、成長する病院を作りあげていくために、地域の皆様・医師会の皆様・行政の皆様と協力しながら日常診療を邁進して地域の健康を守っていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

辰年の年男・年女からごあいさつ

手術室 ^{なかざわ ゆうこ} 中澤 優子



これまでの人生、ジェットコースターでした。毎日こなすだけで精一杯。沢山迷惑も掛けました。ありがとうございました。これからは、俺が俺がの「が」を捨てて、おかげおかげの「げ」で生きます。

今年もよろしくお願いいたします。

総務課 ^{いわぶち さや} 岩淵 紗弥



新年あけましておめでとうございます。昨年は対面研修が再開し、県連内の同期とも横のつながりが増えました。

まだまだ至らぬ点が多くありますが、皆様の仕事を支えられるよう一生懸命頑張りますので、今年もよろしくお願いいたします。

放射線室 ^{かのう たいが} 狩野 大雅



新年あけましておめでとうございます。時間が“タツ”のは早いもので、私も入職して3年目に入りました。

昨年はコロナや戦争などあまり良い年とは言えませんでした。今年は世界中で笑顔があふれる素敵な年になることを願って利根中から笑顔を届けましょう!!

私自身も天高く昇る辰のように飛躍を遂げる1年にしたいと思います。

薬剤部 ^{たけい さとし} 武井 智史



新年あけましておめでとうございます。12年前は社会人に成りたてで、右も左もわからなかった事を思い出します。

近年は様々な環境が著しく変化しています。私自身、徐々に変化に疎くなってきている実感がありますが、変化を恐れず、柔軟に対応していきたいと思っています。

皆様の新しい年が喜びに包まれる一年でありますようお祈り申し上げます。

PICCチーム紹介

PICC（Peripheral-inserted central venous catheter）とは、主に上腕の末梢静脈から挿入する中心静脈カテーテルのことです。挿入リスクは末梢血管穿刺と同様ながら、中心静脈カテーテル（CV）と同様の薬剤を投与することができ、内頸静脈穿刺や鎖骨下静脈穿刺よりも安全に挿入できます。管理に関してもほぼCVと同様としています。

日本医療安全調査機構の医療事故再発防止に向けた提言でも、CV挿入はPICCに置き換えられないか検討する必要があることを提言しており、透析カテーテルや急速輸液などの必要がない場合などは、基本的にPICCに置き換えるべきとなっております。当院でも医療安全の観点からなるべくPICC挿入としてCVを減らすようにしてまいりましたが、個人の力では限界があり、チーム編成して複数体制で挿入にあたっております。内科医、総合診療科医、診療看護師とともに必要時にすぐに挿入できる体制を構築していくことを目標としています。



実際のPICCの様子

外科医長 くまくら ゆうじ
熊倉 裕二



また、特別な手技とせず、誰でも挿入できる手技としていくため初期研修医への指導も行っております。

当院での挿入件数の増加に伴いまして転院時にはPICC挿入の患者様もおりますので、ご理解いただけますと幸いです。また、挿入の依頼なども受け付けて参りますのでご相談いただければ幸いです。



PICCで使用する機器



診療看護師に指導中

2023年度 利根中央病院 災害訓練

～多数傷病者受け入れ訓練～



災害対策委員会 看護師 ^{ますだ}増田 ^{あや}綾

災害拠点病院である利根中央病院で11月18日（土）に、総勢約260人の参加で、「利根沼田地域の局地的な地震」が発生したとの想定で、院内災害訓練が行われました。

地域内地震を想定し、災害対策本部を立ち上げ、

当院の被害状況の確認から訓練はスタートしました。訓練では、傷病者63人を受け入れるため、職員やストレッチャー、物品類が行き交い騒然となっていました。それぞれの職員がアクションカードをもとに真剣に傷病者の対応にあたりました。



災害対策本部の様子

利根中央病院では、災害時の対応に特化した訓練を受けた看護師「トリアーシナース」の育成と、事務系職員への継続的な災害教育を行っています。今回の訓練でも教育を受けた職員が積極的に参加してくれました。

また、災害の専門教育を受けたDMAT隊員も責任ある立場で訓練に参加し、傷病者の受け入れや搬送がスムーズに運用できるよう体制を整えていきました。

毎年行っている災害訓練ですが、コロナ禍の影響もあり模擬傷病者が参加する訓練は、4年ぶりの開催となりました。災害は突然起こりうるもの。災害に対する意識を高め、日常的に備えていくことが大切であるとともに、机上だけではなく実践的な訓練の必要性も今回の訓練で強く感じることができました。

今年度は2024年2月にも病院避難を想定した水害対応災害訓練も行う予定となっています。

利根中央病院は災害拠点病院としての役割を果たすため、いざという時に備え、病院職員一丸となり、地域の皆様のお力になれるよう日々努力していきます。



多数傷病者受け入れ（レッドゾーン）の様子

沼田高校生徒による慰問演奏会

院内において地元沼田高校の生徒約30人による慰問演奏会が行われました。今年度の病院方針に“地域との交流”を掲げており、初めての高校生による慰問演奏会を開催する運びとなりました。

会場には各病棟から入院患者さんが集まり、演奏が始まるとリズムを取ったり手拍子をしたりする姿

が多く見受けられました。アンコールを含め7曲の演奏が終わった後は、大きな拍手とともに患者さんや職員から「とても楽しかった」「いい演奏だった」と笑顔があふれ、会場は感動的な雰囲気になりました。生徒さんから「病気の患者さんが少しでも元気になる曲を練習してきました」とあいさつがあり、緊張のなか一生懸命演奏してくれて、初めての演奏会は大成功でした。



きらめき トピックス

情報交換会を開催

10月13日（金）に4年ぶりとなる『第10回沼田利根医師会・利根中央病院情報交換会』を開催し、20名の医師会の先生方の参加をいただきました。

当院からは各科の医師より診療体制についてのご案内、研修医の紹介をさせていただき、医師会の先生方からは日頃の患者紹介等に対する意見や研修医の先生方への温かい言葉など沢山いただき、励みとなりました。

「顔の見える情報交換」を通して今後もより一層良好な関係を保ちながら、当地域での医療完結を目指すための更なる連携強化が確認されました。



関原病院長の挨拶



研修医の紹介



情報交換会の様子